

担い手通信

2024
vol. 2

2桁伸長も

家庭向け 米販売勢い、 節約志向追い風



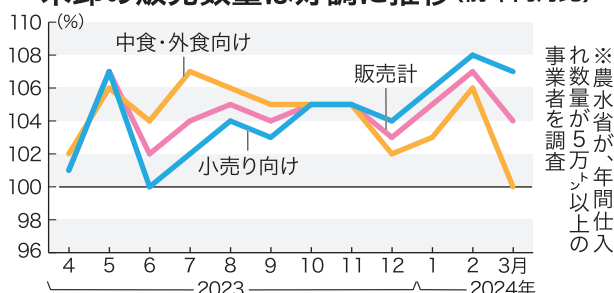
米の需要が急速に高まっています。物価高でモノの値段が上がり消費者の節約志向が強まっている。米は値頃な食材として注目され、毎月の売り上げは前年度超えが続き、2桁伸ばすスーパーも出ています。取引価格も上向き、消費減少が続いてきた米を巡る環境に変化が起きています。

「2023年産米は例年にない好調ぶりだ」。関東圏に100店舗超を展開するスーパーの広報担当者は話します。同社では、23年産米の出回りが本格化した同年9月以降、家庭用米売り場での売上高は前年超えが続いています。中でも23年11月以降の伸び幅は1割以上で、2割を上回る月もありました。



物価高騰下で注目度を高めている家庭用精米（東京都葛飾区で）

米卸の販売数量は好調に推移（前年同月比）



国内に400店舗近く展開する別のスーパーも、4月の売上高を前年同月から1割弱伸ばしました。日本生活協同組合連合会（日本生協連）も対象66店舗で、「前年比で2桁伸びる月がある」と言います。

小売りの店頭価格は、前年から5キロ当たりで数百円上昇するケースが目立っています。「大幅に値下げをする特売の頻度も減った」（東京都内のスーパー）が、販売の勢いが衰える気配はありません。

農水省によると、直近3月の卸から小売り向けの米の販売数量は前年比7%増。9カ月連続での前年超えとなり、24年以降は5%超の水準になります。大手米卸は「スーパーからの引き合いが強く、当初想定していた以上に販売数量を伸ばしている」と明かします。

物価高で値頃感

米の販売が好調な背景にあるのは、節約志向の高まりです。パンや麺といった小麦商品では値上げが相次いでおり、牛肉など高価格帯の品目は販売に苦戦し、キャベツやブロッコリーといった野菜が記録的高値です。そんな中、米は茶わん1杯で約30円と値頃感があるとして、「ご飯食の需要は高まっている」（日本生協連）。

米の取引価格も上向いています。産地と卸の相対取引価格は前年を1割上回り、業者間のスポット取引価格は秋田「あきたこまち」が60キロで2万円（税別）を超えるなど急騰しています。

米の生産コストが高止まりする中、適正価格での販売が定着し、農家所得確保につなげられるかが焦点となります。

（日本農業新聞 2024年5月17日）